

慶應義塾大学出版会

イチ押し

2023年1月新刊のご案内

建築／文化人類学ご担当者さま

ヨコとタテの建築論

モダン・ヒューマン

アーキテクチャ

現生人類としての私たちと建築をめぐる10講(仮)

青井哲人(明治大学理工学部建築学科教授)[著]

四六判並製／296頁 税込予価 2,970円 ISBN978-4-7664-2860-5 C3052

👉ココに注目!

- ・建築学界気鋭の著者による、待望の新刊!
- ・「建築」を人類史的スケールで捉え直し、その本質に迫る!
- ・講義形式で読みやすく、参考文献も充実の入門書。

今、建築家はいかに建てるべきか——、建築本来の成り立ちを人類史的スケールから捉え直す出色の入門書。相似を成す「建物」の広がり(ヨコ)から唯一無二の「建築」(タテ)を立ち上げるための、歴大なりファレンスと巧みな比喻で織り上げる思考のタペストリー。東京芸大での人気講義を大幅に増補した啓発的建築論!

対象 (建築学を専攻する) 学生／一般 (文化人類学に関心のある層)

類書 【建築】隈研吾『点・線・面』(岩波書店)

【文化人類学】ティム・インゴルド『メイキング』(左右社)

【営業部からのおすすめポイント】

本書の編集担当は、「建築・都市・デザイン」分野の編集歴20年のベテランで、鹿島出版会在籍時には、坂牛卓他著『図解 建築プレゼンのグラフィックデザイン』、山崎亮著『ソーシャルデザイン・アトラス』、五十嵐太郎他編『レム・コールハースは何を変えたのか』等を手掛けています。本書を皮切りとして、今後弊社でも、同分野の新刊を刊行してまいりますので、どうぞご期待ください! (乙子)

👉主要目次、注文書を裏面に掲載! ぜひご確認ください!

【目次】

第1講 互換と累進——モダン・ヒューマン、その力のぎこちなさ

アナロジーの曲芸／自他に橋を架ける／不気味な累進性／互換性の思想／ぎこちなく世界へ

第2講 形態と内容——地上の幻

生き続けるデコル論／相似と類似、イメージとコトバ／むしろ「ふさわしい」こと／幻視絵画の窓／そこは相似の海だった

第3講 相対と絶対——数と幾何学の魔法

逆立ちが起きる／「1」はのぞく、なぜなら……／拘束と自由／数の相対性と絶対性

第4講 類型と組織——都市という織物の単位と積層

都市組織論と建物類型論／類型は少ないほどよい／モダン・ヒューマンの都市の建物／組織とは何か／都市の記憶／都市的事物

第5講 自然と人工——なること／つくることは不思議な関係

構法の類型学／工作から組織へ／進化のエージェント／自然と人工

第6講 平衡と進化——わたしたちは想念のなかで都市建築を分解する

かたい／やわらかい／あり方と動き方／平衡と進化／分解の宇宙／時間のかたち

第7講 饒舌と沈黙——喧騒のなかのサイレンス

19世紀ジャングル—社会の誕生／異形の身体と想像の共同体／内容のインフレーション／ポチョムキン都市／亡霊都市／バラバラゆえに

第8講 過去と未来——世界が壊れ、組み変わっていくとき

前講のおさらい—伝統の終わりにいるという歴史意識／伝統への愛ゆえに／過去から未来を見通す—19世紀は大理論の時代だった／未来派—人間身体そのものの更新／伝統の反転／伝統の創造／やっぱり世界はバラバラ

第9講 単純と複雑——多元的な世界をそのままに

Bでもあり、13でもあり—アンビグイティ／透明性—見えないものを見せる知覚の働き／ブリコラージュ／詩的言語／コーリン・ロウによるガルシュ／都市へ、社会へ

第10講 能動と受動——むすびにかえて

海に潜るように／能動と受動だけではない／スピノザの外態と内態／都市・建築のリアリズム再論／創作行為と内態（中動態）／第一の社会性—巻き込みと成長／第二の社会性—開かれと堆積／第三の社会性—虚構すなわち幻視を



ご注文は FAX で！ 03 - 3451 - 3124



番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	税込予価	部数
新刊委託		青井哲人 著		
		ヨコとタテの建築論 — <small>モダン・ヒューマン</small> 現生人類としての私たちと建築をめぐる10講(仮) <small>アーキテクチャ</small> I S B N 9 7 8 - 4 - 7 6 6 4 - 2 8 6 0 - 5 C 3 0 5 2	2,970 円	★★★★★

★1つで「500部」を表します